

総評

今回は、夏休みの時期が新型コロナ感染拡大の第五波と重なったため、絵本を読んでどのような新しい気づきや感動がありましたかという問いに対するおたよりが、いつもより少なくなるのではないかと心配していました。ところが、現実とは全く逆で、おたよりが一五〇〇通を超えるという、これまでにない数を記録しました。

コロナ感染を防ぐために、旅行に行かなかったり遊園地や催し物に出かけるのを自粛したりする家庭が多かったので、家の中で本を読むことが多くなったのでしょう。

しかも、おたよりのなかには、毎年そうなのですが、子どもの部も一般の部も、感動的なエピソード

を記したもののや、こころの成長につながる気づきを記したものの、絵本の深い隠し味を見出したものの、“家庭の絵本文化”の新しいあり方を示したものなど、すばらしい内容のものが少なくありませんでした。

絵本大賞の選考にあたる私にとっては、この絵本大賞に寄せられるおたよりを読むことは、普段取り組んでいる絵本の紹介による普及活動と違って、子どもたちや大人たちが絵本をどのように読んでいるか、その実際の様子を知る絶好の機会になっています。私がおたよりからどのようなことを読み取っているかは、大賞と優秀賞に選んだおたよりの筆者に対するメッセージに詳しく書きましたので、ぜひ読んで頂きたいと思います。